

※別冊 政策説明

第2次能代市総合計画1次素案に関する意見等一覧

1	<p><b>元気で魅力あるまち（地域づくり・健康づくり）</b></p>
	<p><b>(1) 地域資源を活かした特色あるまちづくり</b></p> <p>◇ 地域資源について 檜山を盛り込められないものか。</p> <p>◇ 移住定住について ターゲットの明確化。</p> <p><b>①市独自の特色あるまちづくりを展開する</b></p> <p>◇ 市独自の特色あるまちづくりの中に「木育のまちづくり」を入れてほしい。</p>
	<p><b>(2) みんなが参加し活躍する地域づくり</b></p> <p>◇ Third Placeのような場所がまだまだ普及されていない。NPOも若者を巻き込みながら成長する持続可能なものはあるだろうか。</p> <p><b>④人権意識や平和意識を守る</b></p> <p>◇ 「人権意識や平和意識を守る」だけでなく、「すべての世代で人権教育を行う」ことを明言してほしい。</p>

(3) 心豊かな暮らしを支える健康づくり

②疾病予防や早期発見の体制を整える

- ◇ 【施策の内容】の文末に、次の文章を追加してはどうか。  
また、能代厚生医療センターに「認知症疾患医療センター」が設置される見通しから、認知症の診断と診療の進歩が図られることが期待されることから、その後のケアプランの作成、かかりつけ医（在宅診療医）による治療等、認知症患者への支援の強化に努めます。

○悩みを相談できる環境の重要性

- ◇ 若年層の自殺が増加傾向にあり、県内の自殺者の2割を占めている状況の中、高齢者と共に若年層への対策が重要な課題となっているため、政策説明に若年層対策を書き加えが望ましい。
  
- ◇ 秋田県内自殺者職業別では、無職者（学生、生徒を含む）が平成28年では173人と多く、能代市では本市独自での無職者の内訳調査はされておらず、ひきこもりやニートの実態も不明である。能代市管内において若年層（15歳から39歳）の無職者を対象に、ひきこもり、ニートの実態調査に努め、「15歳から39歳」を対象として、仕事に関する悩みや心配を抱える方への継続的な支援を取り入れ、若年層の自殺者軽減を目的とした政策を加えるべきと思います。
  
- ◇ 傾聴ボランティア育成講座修了生による各サロンは、旧能代市に10カ所、旧二ツ井町は1カ所と、【現状や課題】の「悩みを相談できる環境の重要性」と地域での政策には偏りがある。傾聴ボランティア育成講座受講場所は、能代市中央公民館で行われるため、旧二ツ井町での会場でも傾聴ボランティア育成講座を行い、二ツ井地域でのサロン会場を増やし、相談できる環境を整えるべきと思います。二ツ井地域でも傾聴ボランティア育成講座を行い、相談日を増やす。

	<p>(4) 気軽に親しみ楽しめるスポーツ</p> <p>◇ スポーツだけでなく、文化芸術・アートについても同等に計画にあげてほしい。文化会館での芸術体験教室の開催や、乳幼児向けの鑑賞教室の開催、文化少年団の設立と育成支援、全国大会出場者等への支援など。</p>
2	<p>笑顔で人が輝くまち（人材育成・生涯活躍）</p> <p>(1) 地域や社会で支える子ども・子育て</p> <p>◇ 子育てサークル等に対する支援の充実と組織としての継続性への支援について。</p> <p>◇ 子育て支援センターの業務の見直しをするべき。センターが中心となった場合、センターの人が直接動き回るのではなく、周りを動かせるくらいの力を持つべき。</p> <p>◇ 妊娠、出産、育児の流れのなかで、色んな手続きや、抱える不安や悩み、そして育児の楽しさや充実感を一つの場所で共有できる場所が私は必要だと思います。 つどいの広場「ぽけっと」は年間2,959組、延べ7,368人（平成28年度）の利用があります。広場は子育て当事者が日々集まる場所ですから、色んな支援を求める生の声を聴くことができます。広場で解決できない相談に関しては、次の窓口を紹介したりしますが、もし、その窓口が同じ館内にあって、多様な相談に応じられる部署があると、すぐにその場で解決ができます。子育て家族も再度、車を走らせ足を運ぶ必要がないわけです。私は、国が設置を呼び掛けている包括センターを能代にも設けて、その中に、核となる子育て支援センターがあって、包括センターの中で検診ができて、相談ができて、色んな手続きができて、子どもと一緒に楽しく過ごせる場所などもあって、それらをギュッとひとまとめにした、能代が誇る包括センターの設置で、親にとっても子にとっても（ここが大事。親だけ支援してもだめ）素晴らしい子育て環境が作られていくと思います。</p>

第2次能代市総合計画1次素案に関する意見等一覧

<p><b>②子どもを生き育てやすい環境を整える</b></p> <p>◇ 次の内容を追加してほしい。 「地域包括支援センターの中に、子どもに関する行政サービス、子育て支援活動、遊びの広場、集いの広場などが一堂に会した場所をつくることで、子育て世代が必要な支援をワンストップで受けられるとともに、世代間交流も活発になる。また、そこに木を取り入れることで、木育の推進にもつながる。</p>
<p><b>(2) 次代を担う子どもを育てる学校教育</b></p> <p>◇ 「ふるさと教育」→「地域教育（PBLの充実）」など</p> <p><b>○いじめや不登校の問題</b></p> <p>◇ 【現状や課題】全項目から、自殺、自殺未遂を出さない旨の取組項目が無い ため、児童・生徒の自死を予防するための「生と死の教育」からの生徒指導。死を見つめ生を肯定する道徳観の育成の必要性。</p>
<p><b>(3) 地域や社会に活かす生涯学習</b></p> <p><b>④文化・芸術の振興を支援する</b></p> <p>◇ 「文化・芸術団体の活動を支援するとともに」の後に「乳幼児期からの」を付け加えてほしい。</p>

**(4) 地域で活躍する元気な高齢者**

**③介護予防を行う**

- ◇【施策の内容】の文末に、次の文章を追加してはどうか。  
なお、地域包括センターを中心として、地域ごとに高齢者が集い、健康・生活・介護等について、「語り合い、助け合う場」をつくる援助を積極的に行います。また、高齢者の介護に関する計画づくりにおいては、介護保険利用者や介護に携わる家族団体等の声を反映させ、その内容の充実を図ります。

**④介護保険・高齢者医療制度を適正に運用する**

- ◇【施策の内容】の文末に、次の文章を追加してはどうか。  
なお、システムの構築にあたっては、在宅診療医の委託、訪問看護ステーションの拡充等が望まれる、「地域医療システム」と連携するとともに、在宅療養者及び在宅介護世帯の要望が強い「訪問介護事業」、とりわけ「夜間対応型訪問介護事業」の整備等を中心とした、地域の高齢者に対する包括的なケアシステムを展開するよう努めます。

**(5) 自立した暮らしを支える社会福祉・社会保障**

3	<b>豊かで活力あるまち（産業振興・雇用創出）</b>
	<b>（1）地域特性を活かした産業創出</b>
	<b>（2）雇用とにぎわいを生み出す商工業</b>  <b>①企業誘致や既存企業の活性化を進めるについて</b>  ◇素案P 6④に示すとおり、現在は求人倍率が県内で最も高い地域であり人手不足が深刻な状況になっている中、企業誘致により雇用の量を増やすことは地元企業の人手不足感をさらに強めることとなります。企業誘致は短期間で成果が出るものではないため、現在の雇用動向がどうであっても常に取り組んでおくべき課題ですが、施策の冒頭に企業誘致を掲げることは地元企業の反発も考えられます。 「企業誘致と雇用の創出」は市民アンケートでも重要度は高く満足度は低い結果となっており、重点的に取り組むべき分野としても2番目に挙げられていますが、回答者が指摘しているのは「自分の希望条件を満たす雇用が不足している」ことであると考えられ、雇用の量が不足していることよりも質的に不満があるとの回答ではないかと思えます。他地域から移住して勤務できるような賃金体系の構築を支援するなど、地元企業の雇用の質的向上を支援する施策を掲げられればと考えます。
	<b>（3）豊かな自然や伝統・文化を活かした観光</b>
	<b>（4）力強く持続する農業</b>
	<b>（5）山・川を生かす林業・木材産業・水産業</b>

4	<p><b>安心で暮らしやすいまち（生活環境・行財政）</b></p>
	<p><b>(1) 安全な暮らしを守る防災・防犯体制</b></p>
	<p><b>(2) 機能的で利用しやすい道路・交通ネットワーク</b></p> <p>◇ 整備する交通手段の1つに、路線バスを挙げていましたが、それとは別に、市内循環バスを導入するのは、どうでしょうか。私の地元の由利本荘市では、路線バスとは別の、市内循環バスも運行しています。</p>
	<p><b>(3) 快適で暮らしやすい住環境</b></p> <p>◇ 飲料水の確保する方法として、白神山地の湧水を活用するのは、いかがでしょうか。これは、地域資源の有効活用にもなるため、推進すべきだと思います。</p>
	<p><b>(4) 自然と共生し持続できる環境・衛生</b></p>
	<p><b>(5) 調和のとれた有効な土地利活用</b></p>
	<p><b>(6) 住民サービスに資する効率的な行財政基盤</b></p>